

平成26年度八重山群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	60	30	30
平年並	30	30	40
低い(少ない)	10	40	30

(平成26年11月20日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	20.1	22.7	18.0	126.3	100.7

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 12月の発生予報および防除上の注意事項

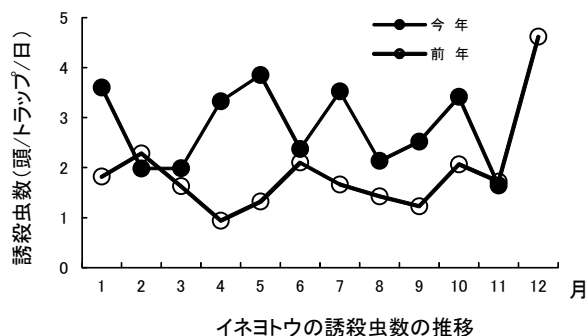
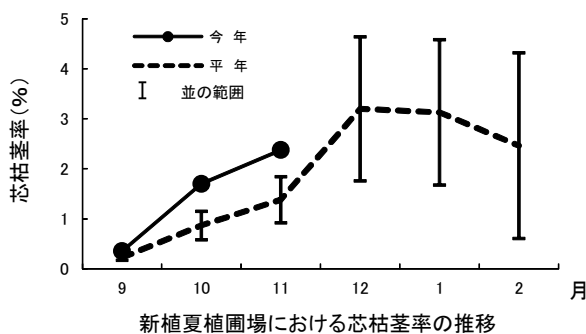
1 さとうきび

(1) イネヨトウ

発生程度 : 多

予報の根拠

- 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は2.4%(前年2.3%、平年1.3%)と平年よりやや高かった。
- 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.6頭(前年1.7頭)であった。



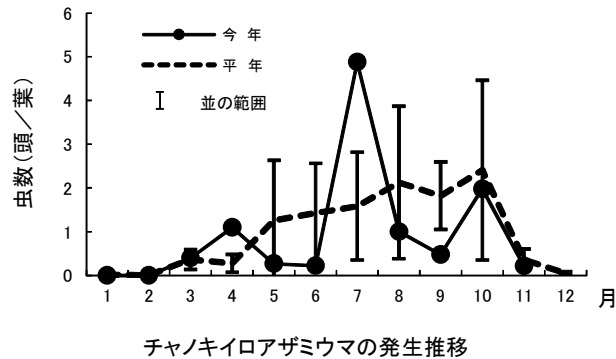
<防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉梢部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 平成26年度病害虫発生予報第6号(平成26年8月28日付)コラム参照。

2 マンゴー

○ チャノキイロアザミウマの防除対策

11月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.2頭(前年1.5頭、平年0.4頭)と平年並であったが、一部の施設で特に発生が多かった。



<防除上注意すべき事項>

- 不要な新梢等を除去し、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 発生源となる施設内外の施設を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

○ ハダニ類の防除対策

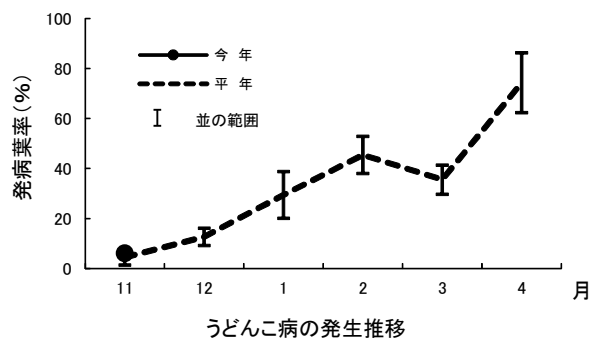
- 11月中旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は5.4頭(前年0.1頭未満、平年0.3頭)と平年より多かったが、一部の施設で特に発生が多かった。
- 新葉や葉裏にも寄生するので、薬剤は丁寧に散布する。
- 多発すると防除が困難になるので、早期防除に努める。

3 かぼちや

(1) うどんこ病

発生程度 : 並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は6.0%(前年6.6%、平年4.5%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 発生源となる株元の不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- 着果期以降、草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。